

# IC2010 論文募集

小柏 伸夫<sup>†</sup>

島 慶一<sup>‡</sup>

<sup>†</sup> 共愛学園前橋国際大学    <sup>‡</sup> IJJ イノベーションインスティテュート

本年もインターネットコンファレンス 2010(IC2010) を下記 4 組織の主催により開催する運びになりました。本年は昨年までのコンファレンスにも増して、質の高いかつ幅の広い課題を扱っていきたいと思っております。奮って論文の投稿をお願い申し上げます。

## IC2010 Call For Paper

Nobuo Ogashiwa<sup>†</sup>

Keiichi Shima<sup>‡</sup>

<sup>†</sup>Kyoai Gakuen College    <sup>‡</sup>IJJ Innovation Institute Inc.

We are glad to announce that the Internet Conference 2010 (IC2010) will be held this year supported by the four sponsor organizations shown below. We are looking forward to receiving your submissions of higher quality and wider variety of papers than we have ever seen.

### 1 開催にあたって

家庭用のインターネット接続環境がギガビット級の速度に達しようとしており、高速、大容量の通信が利用できる環境が簡単に手に入るようになりました。また、無線ネットワーク技術は屋内のみならず、広域でも大容量のデータ通信環境が利用できるようになりつつあります。これに呼応するように、クライアントによる処理能力に大きく依存して発展してきた計算環境は、クラウドコンピューティングと名前を変え、再びネットワークの向こう側の計算資源との連携を考慮する設計に戻りつつあります。また一方で、未だ十分にインターネット基盤が普及しておらず、技術の恩恵を受けることができないといった、技術格差が世界各地に残っているのも事実です。近年では通信環境の安定しない場所でも情報へのアクセシビリティを向上させるための、DTN のような技術にも注目が集まっています。インターネットは、単に計算機を繋ぐだけの技術から、情報を伝える基盤へと発展し続けています。今後ますます増加、複雑化していく情報を取り扱うためには、大容量バックボーンを支える技術、様々な環境の応じて適切な手段で情報にアクセスするための技術、安全で安定した通信を保証する技術、安心して利用できる通信手段を提供する技術、広域に分散した計

算資源を統合活用する技術など、より高度な技術革新が必要です。

1996 年に始まった本コンファレンスでは、驚くべき速度で、進化を続けていくインターネット技術の、最先端の課題に取り組んだ論文が毎年発表されております。

### 2 コンファレンスのテーマ

IC2010 では、インターネットテクノロジーに関する論文を幅広く募集します。プログラム委員会は以下のテーマを例として提示しておりますが、これに限るものではありません。

#### 2.1 テーマの例

インターネットアプリケーション、クラウドコンピューティング、グリッドコンピューティング、ネットワークアーキテクチャ、プロトコルデザイン、経路制御、QoS 保証、マルチキャスト、モビリティ、ダイレイトラントネットワーク (DTN)、ホームインターネット、インターネットアライアンス、トラフィック解析、トラフィック制御、セキュリティ、認証、アクセス制御、Web 技術、情報検索、モバイルエージェント、管理・運用・計測技術、性能評価、テストベッ

ド技術、分散処理、オペレーティングシステム、アクセシビリティ。

### 3 プログラム

プログラムならびに参加募集の詳細は9月中旬の公開を予定しております。

### 4 論文募集

インターネットの次世代を担う質の高い論文の応募を期待します。応募された論文は、新規性、有用性、実装・評価、インターネットの発展への貢献、という観点からプログラム委員会で査読を行い、採否を決定いたします。ただし、既発表の論文あるいは学会等が発行する論文審査を伴う刊行物に投稿中の論文は受理できません(二重投稿の禁止)。

論文発表は、発表自体に重点を置く『報告型発表』と、質疑応答に重点をおく『議論型発表』に分けて行います。発表形式は論文の質とは無関係です。どちらを希望するかを論文投稿時にご記入ください。ただしプログラム委員会での決定により、ご希望にそえない場合もあります。なお、論文集においては両者の区別はありません。

時間配分は、報告型発表は発表時間が25分・質疑時間が5分、議論型発表は発表時間が15分・質疑時間が15分を予定していますが、最終的には、プログラム作成時にプログラム委員会で決定させていただきます。

### 5 デモンストレーション募集

IC2010ではデモンストレーション展示を予定しております。特に論文発表に伴ったデモンストレーション展示を歓迎します。投稿論文に関するデモンストレーションを予定している場合は、投稿時にデモ展示を希望する旨をご記入ください。なお、会場にはインターネット接続が用意される予定です。

### 6 論文誌との協調

IC2010で発表された論文の中で優秀な論文は、IC2010プログラム委員会から、協賛である電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会(IA)を通して、論文誌(和文あるいは英文)への推薦などを予定しています。

### 7 論文投稿方法

**登録締切** 2010年8月9日(月)

**提出締切** 2010年8月6日(月)

**提出形式** フルペーパー、A4 6-10ページ程度  
(PDFによる電子投稿)

**採否通知** 2010年9月21日(火)

**カメラレディ提出期限** 2010年9月28日(火)  
(PDFによる電子投稿)

**言語** 日本語、英語

詳細な投稿手順についてはIC2010のWebページをご覧ください。

### 8 著作権等

投稿された論文の著作権は著者に帰属します。

ただし、著者は採択された論文の論文集およびIC2010のホームページへの掲載、ならびに、それらの媒体を介した不特定多数への配布を許諾するものとします。

### 9 その他

論文発表を伴わないデモンストレーションも別途募集する予定です。詳細が決定次第参加募集を行ないますのでそちらをご参照の上是非ご応募ください。

### 10 日時と場所

日時と場所を表1に示します。また、地図を図1に示します。

表 1: IC2010 開催日時と場所

日時	2010年10月25日(月)–10月26日(火)
会場	東京大学 弥生講堂 一条ホール
住所	〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内

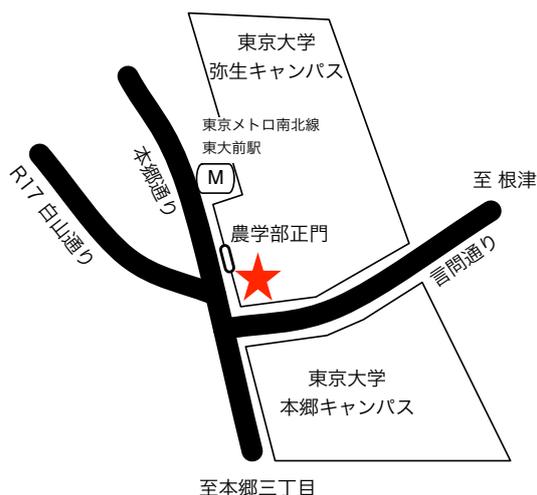


図 1: 東京大学 弥生講堂 一条ホール 案内図

## 11 主催 (五十音順)

- 日本学術振興会産学協力研究委員会インターネット技術第 163 委員会 (ITRC)
- 日本ソフトウェア科学会インターネットテクノロジー研究会 (ITECH)
- 日本 UNIX ユーザ会 (jus)
- WIDE プロジェクト (WIDE)

## 12 協賛 (五十音順)

- IEEE Communications Society Japan Chapter
- 財団法人インターネット協会 (IAJapan)
- 九州インターネットプロジェクト (QBP)
- 九州ギガポッププロジェクト (QGPOP)
- グリッド協議会 (JPGRID)
- サイバー関西プロジェクト (CKP)

- 情報処理学会 インターネットと運用技術研究会 (IOT)
- 情報処理学会 関西支部
- 情報処理学会 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会 (OS)
- 情報処理学会 ハイパフォーマンスコンピューティング研究会 (HPC)
- 情報処理学会 マルチメディア通信と分散処理研究会 (DPS)
- 情報処理学会 モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会 (MBL)
- 情報処理学会 ユビキタスコンピューティングシステム研究会 (UBI)
- 電子情報通信学会 インターネットアーキテクチャ研究会 (IA)
- 電子情報通信学会 情報ネットワーク研究会 (IN)
- 電子情報通信学会 ネットワークシステム研究会 (NS)
- 日本学術振興会拠点大学事業 (日韓次世代インターネットの研究開発)

## 13 運営協力

- 東京大学大学院 農学生命科学研究科
- 北陸先端科学技術大学院大学 インターネット研究センター

## 参考文献

- [1] Jon Postel (Editor). *DARPA INTERNET PROGRAM PROTOCOL PROTOCOL SPECIFICATION*. IETF, September 1981. RFC791.
- [2] Brian Hayes. Cloud computing. *Communications of the ACM*, 51(7):9–11, July 2008.